銅建値

日増しに寒さが身にしみる季節となりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。
さて、11 回目の配信となる今回のテーマは「銅建値」についてです。

近頃、銅の建値は急激に高騰していますが、「銅建値」とはそもそも何であり、どのように決められているのでしょうか。今回はそれについてお話しさせていただきます。

まず、国内の銅建値は LME の毎日の取引の単価を元に、円とドルの為替を合わせて JX 金属様が決めています。

「LME」とは London Metal Exchange の略で、ロンドン金属取引所のことです。英国ロンドンにある世界最大規模の金属専門の取引所を指しています。そこは 1877 年に設立された取引所で、銅や鉛、亜鉛、ニッケル、錫(スズ)、アルミニウムなどが上場されており、その取引価格は金属相場の世界的な指標となっています。

銅建値が変動する主な要因としては、需要家が将来使用量を見込んでリスクヘッジする場合や、相場のトレンドを考えて先物取引で儲けを考える投資家の動向などが考えられます。

2021 年 10 月の平均銅建値が 1,153.1 円/kgと近年稀にみる高値になっている理由のひとつとして、地球温暖化対策としての自動車の EV 化があると言われています。また EV 化以前にも車の電子化・コンピューター化が進むことで電気配線の需要が大きく伸び、ハーネスを製造する会社はフル操業が続いていました。加えて、内燃機関(エンジン)がモーターへ転換するこの世紀のゲームチェンジには、世界中の自動車メーカーが覇権をかけて参入しています。

今後の銅建値がどのように推移するのかは誰にも分かりませんが、上述した状況に鑑みると、当分は高い建値が続くのかも知れませんね。

なお、今から 20 年ほど前の国内の銅の建値は 200 円/kg程度でほとんど振れることがなく、安定していました。その当時の建値と現在を比較すると、6 倍近く高騰しているのは驚きですよね。「あのとき買っておけば大儲けできたのに」なんて思われる投資家の方もいらっしゃるのではないでしょうか。一方で、今回の大幅な価格上昇には痛手を被った方もいらっしゃると思います。銅建値変動のリスク対策が必須となる時代なのかも知れません。

それでは、また次回配信を楽しみにしていてください。ありがとうございました。